

# ACANTHUS



## 特集

## 幕内最年長力士・豪風関をお迎えして

## Index

学長挨拶 ..... 2

【特集】幕内最年長力士・豪風関をお迎えして ..... 3

Close-up campus クローズアップキャンパス ..... 4

大学祭 ..... 11

Club & Circle クラブ・サークル ..... 12

先輩からの手紙 ..... 14

【連載】研究室への誘い 人間生活学部人間生活学科 ..... 16

アカサス会からのお知らせ ..... 18







# 次の選挙では必ず投票に行こう



学長 桐野 豊

2016（平成28）年度の公開講座で、憲法学者の橋本基弘先生（中央大学副学長）は、民主主義の根幹は「自分のことは自分で決める、みんなのことはみんなで決める」ことである、と述べられました。しかしながら2017（平成29）年に行われた第48回衆議院議員選挙の投票率（小選挙区）は、53.7%と戦後2番目に低い水準となりました。これでは「みんなのことはみんな

で決める」ということになりません。こうしたことから政府は、投票率を高めるためにいろいろな啓発活動を行っています。また、インターネットで投票する仕組みを作ることも研究しているようです。

2016（平成28）年に選挙年齢が18歳に引き下げられたところですので、18歳・19歳の投票率が注目されますが、2017（平成29）年の総選挙では、18歳が50.7%、19歳が32.3%でした。また、2016（平成28）年7月の参議院議員選挙では、18歳が51.3%、19歳が42.3%で、全体の54.7%よりも低い結果でした。

両選挙ともに、10代・20代の若者の投票率が低く、50歳以上の高齢者の投票率が高いという結果になっています。現在および近未来の日本は、若者の数が高齢者よりも少ない上に投票率も低いとあっては、若者の考えが社会のあり様を決める政策に反映されません。高齢者の声が政治に反映されやすいと言われているのはこのためです。こうしたことから年代間の

「格差」を是正するために、小選挙区を現在の地域別区割りから年齢別区割りにすべきであると主張している識者もいるほどです。

文部科学省は選挙権年齢の引き下げとともに、2016（平成28）年度から主権者教育を進めています。その目的は「主権者として社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、社会の構成員の一人として社会を生き抜く力や地域の課題解決を主体的に担うことができる力を身につけさせること」であります。これはまさに本学の建学精神「自立協同」に通ずるものがあります。

大学での学びは、地域の課題解決に向けた主体的な行動が求められます。政治に関心をもち、自分たちの課題を自分たちで解決・決めるための第一歩として投票権を行使しましょう。自宅通学以外の学生の皆さんも徳島市やさぬき市など現住所に住民票を移して投票券が届くようにしましょう。そして今後の選挙では必ず投票に行き、自分たちの未来を決める行為に参加していただきたいと思ひます。



⑤ トークショーに先立って徳島文理大学附属幼稚園を訪問。⑥ 徳島文理小学校にはマスコミ5社が取材に来てくださいました。両腕で児童数人を一気に持ち上げたり、数人がかりで腕相撲をしたら会場は大いに盛り上がりました。

## 幕内最年長力士・豪風関をお迎えして

広報企画官 戸川 友美

豪風（たけかぜ）関とのお縁は私の母校・中央大学の後輩が、関取と大学で同じクラスだったというきっかけです。37歳でいまだ現役でがんばる豪風関と知人になり、タイミングよく2017（平成29）年7月に本学と中央大学との間で包括連携協定が結ばれました。そのことを関取にお伝えし、包括連携協定締結記念行事として来学していただけないかと打診したところ「相撲以外のことにも何でもチャレンジしてみたい」と快諾してくださいました。関取からは一方的に話をする講義調ではなく、できれば掛け合いのようなトークショー形式がいいとお願いされ、ならば「徹子の部屋」のような舞台づくりをしてみようと企画いたしました。

トークショー開催日は平日（水曜日）のため集客に不安がありましたが、徳島ではお相撲さんを間近で見たことがないので、長く現役で活躍する豪風関の半生を振り返ることで豪風ファンを増やそう、また大相撲のことを知ってもらうために事前に相撲にまつわるQ & Aを多数集め、それを関取に解説してもらおうと考えました。

2017（平成29）年9月27日（水）、トークショー当日は雨でしたが、開場の1時間以上前からむらさきホールには熱心な

大相撲ファンが集まり、あっという間に1階・2階席とも満員御礼となりました。尾車部屋の浴衣を身にまとい、びんつけ油のにおいがする現役力士に客席が沸いているのは徹子役の私にもダイレクトに伝わってきました。

90分のトークショー前半では、関取の半生を振り返りました。170cmの小柄な体格にして22歳で角界入りし、幕内最年長力士（※トークショー当時）として83場所、実に14年近くも幕内を務め、最高位は関脇、三賞を2度受賞されたということがいかに素晴らしいことなのかをお伝えすることができたかと思ひます。後半は「ごつつあんはどんな時に使うのですか？」や「化粧まわしの重さはどれぐらいなのですか？」など会場から出た質問も含め、関取にさまざまな質問に答えていただきました。中でも本学学生からの怪我をしたときのモチベーションの保ち方についての質問に対して「常に目標を決めて努力し続けることがいかに大切であるかということ、また土俵上での緊張に打ち克つには稽古しかない」という答えには、ストイックな関取の生きざまを見せつけられた気がいたしました。

豪風関の話術に助けられての90分でしたが、後日関取から「横浜での巡業先で先日の徳島文理大学でのトークショーに

お邪魔してここに来ました！という方に声をかけられましたよ」という嬉しい報告がありました。心技体を整え、常にメンテナンスし、努力し続ける豪風関には一場所でも長く現役を続けていただきたいと心から思ひます。

最後になりましたが、トークショー開催にあたり、学内外のたくさんの方にご尽力・ご足労いただき、成功に導いてくださったことをこの場を借りてお礼申し上げます。



豪風関からいただいた手形と大入袋

大入袋は大相撲の場所中、満員御礼日だけ関取以上の力士にのみ配られるものだそうです。2017（平成29）年9月場所は初日から千秋楽までの15日間すべてが連日満員御礼で、その15枚をすべて本学にくださいました（一人の関取につき1日1枚しか配られないようです）。大入袋は縁起物だということでこれからの入試シーズン、大入りになるようにとの思いを込めまして入試広報部の入り口に飾りました。





## 韓国 水原大学音楽学部との交流演奏会

音楽学部 教授 板東 久美

本学と韓国の水原大学は2015(平成27)年から相互間で演奏会を開催するというプロジェクトを行っております。2017(平成29)年9月13日(水)～16日(土)に交流演奏会を開催するため、本学音楽学部学生や音楽学部教員とともに水原市へ向かいました。

初年度は何も分からないまま緊張の中で本番を迎えましたが、水原大学の皆さんによる思いもかけない温かな歓迎を受け、大変気持ちの良い環境の中で演奏するこ

とができ、安堵したのを覚えております。今回の交流演奏会には、水原大学の卒業生、本学からの留学生や卒業生も駆けつけてくれ、学生同士の深い交流が続いていることを心から嬉しく思いました。毎回演奏するプログラムの中には、韓国民謡のアリランと日本の歌の赤トンボのメロディが美しく絡み合い、ひとつになって終わるという素敵な曲があります。韓国・日本、両国の関係もこの曲のように美しいハーモニーを響かせ続けら

れることを心から願っています。演奏会の翌日はソウルの観光を行いました。昔の皇居である「景福宮」では、全員が韓服に着替え、いにしへの宮を満喫しました。若者の街「明洞」での買い物やミュージカル「ナンタ」の観劇等、至れり尽くせりのおもてなしを受け、再会を約束して帰路に着きました。2018(平成30)年には本学に来学いただき、演奏会をとおして学生・教員共々さらに交流を深めたいと思っています。

## 「チャレンジ！糖尿病いきいきレシピコンテスト2017」昼食部門1位「優秀賞」を受賞！

短期大学部生活科学科食物専攻では、栄養士の養成を行っています。2017(平成29)年10月8日(日)に行われた日本糖尿病協会主催の「チャレンジ！糖尿病いきいきレシピコンテスト2017」で、生活科学科食物専攻2年の小川竜平さんと恵美須孝平さんが、昼食部門の1位となる「優秀賞」を受賞しました。糖尿病いきいきレシピコンテストは今回で開催4年目となり、年々応募数も増加しています。2017(平成29)年は全国より387件の応募があり、1次予選を

通過した11校12チームが東京都の大妻女子大学で開催された本選に出場しました。2時間で4人分の料理を仕上げ、審査が行われました。その結果、本学の2人が「優秀賞」を受賞しました。チーム名は「食物マイノリティ」。クラスでも男子が少数であること、栄養士の仕事をされている方には女性が多いことからつけられたチーム名です。献立は徳島産の食材をふんだんに使い、お弁当の形で仕上げました。2人が考案した献立名は「地産地消でカラダも

「徳します弁当」。「得」することと徳島の「徳」を盛り込んだウィットに富んだネーミングとなっています。徳島新聞の2017(平成29)年11月24日(金)夕刊にも記事として取り上げられ、本学ホームページにも賞状とトロフィーを持つ写真が掲載されました。受賞した2人は卒業後、栄養士としての就職が決定しています。栄養士という夢をかなえ、さらに学生時代の誇らしい思い出を胸に今後もがんばってほしいと思います。



真剣に調理を行う恵美須孝平さん(左)と小川竜平さん(右)

表彰式の様子

優秀賞を受賞した小川さん(左)と恵美須さん(右)

## 徳島県若年者技能競技大会・洋菓子製造部門にて、大西亜未さんが銅賞を受賞

2017(平成29)年10月21日(土)本学徳島キャンパスにて、徳島県および徳島県職業能力開発協会主催の若年者技能競技大会が開催されました。この大会は若年者のものづくり技能に対する意識を高め、技能向上に資する取り組みを推進するため、県内の職業能力

開発施設等で技能習得している学生や訓練生をはじめ、県内企業で働く若年技能者が技を競いあう場として、今年から新たに洋菓子製造部門が設けられることになりました。デコレーションケーキの土台となるスポンジケーキを焼き、バタークリームを

製造し、課題どおりのデコレーションケーキを仕上げしていきます。総合点での評価となり大変難しい課題の大会です。生活科学専攻からは1年生の代表2人が苦手な課題を一生懸命練習して本番に臨み、大西亜未さんが銅賞を受賞しました。

### ◆銅賞を受賞した生活科学科生活科学専攻1年 大西亜未さんのコメント

今回の大会には専門学校生や専門高校からたくさんの方が参加していましたが、あまり緊張することなくしっかり手順を確認しつつ、落ち着いて臨めました。特に苦労したのがバラ絞りでした。先生の熱心なご指導のもと、日々練習に取り組みました。最終的に習得することができたのは大会の前日でした。本番では練習の甲

斐あってか、一度も失敗せずに絞ることができました。その努力の結果、銅賞を受賞することができ、とても嬉しかったです。他の参加者の皆さんも素晴らしい技術をおもちで、誰が賞を受賞してもおかしくはありませんでした。今回の結果に満足せず、また新たな課題に取り組み、上をめざしていこうと思います。





## 2017 (平成 29) 年度「私立大学研究ブランディング事業」に選ばれました

文部科学省が実施している2017(平成29)年度「私立大学研究ブランディング事業」において、188校の申請中60校が選定され、その一つとして本学の「藻類成長因子を用いた海藻栽培技術イノベーション」がタイプAの事業として選定されました。タイプAは地域密着型であり、本学の研究力をいかして地域の産業発展に貢献する事業計画が評価されました。

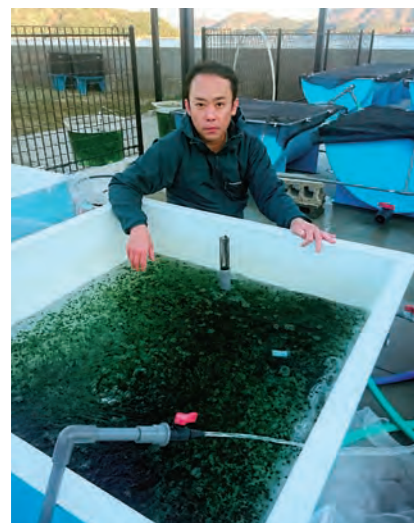
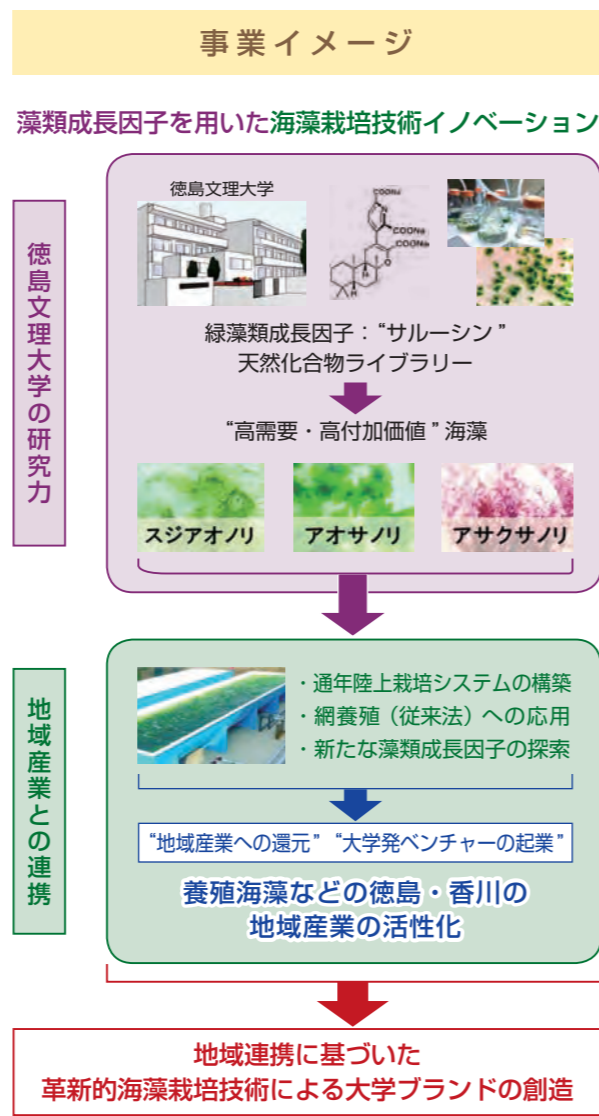
本学の建学精神に基づき、地域社会を学術的見地から支える役割を担い、グローバル教育を推進する中で「地域の発展に貢献できる人材」の育成をめざしています。その具体的な取り組みの一つとして「海藻養殖」の研究を進めています。

徳島県ならびに香川県は、古くからスジアオノリやアオサノリなどの海藻養殖が盛んな地域で、生産された海藻を加工・販売する第二次・第三次産業が栄えてきました。しかし近年では水温上昇などの環境変化により、天然養殖における水揚げ量が低下し、その原価は高騰傾向にあります。今後、この状況が続くと海外からの輸入に頼らざるを得なくなり、ますます地域産業の衰退が懸念されます。

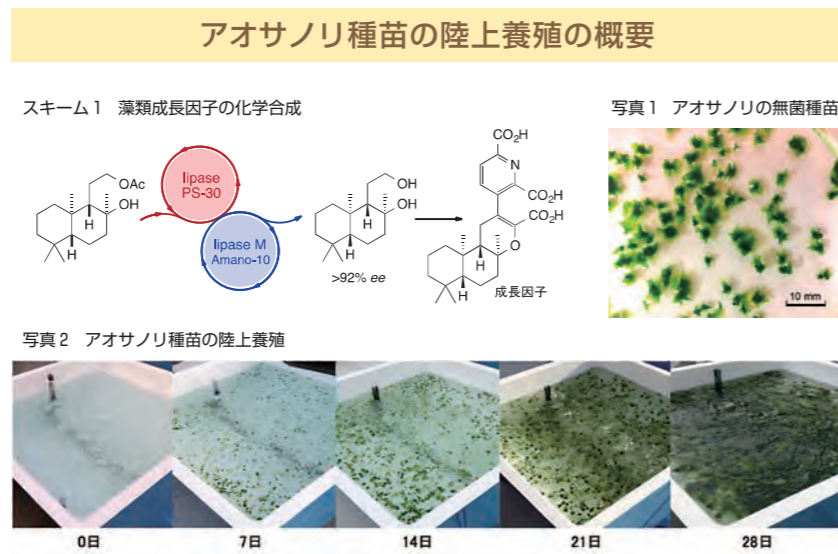
そこで、本学教員が独自に開発した「緑藻類成長因子サルーンを用いた革新的海藻種苗生産技術」を核に、海藻類の安定栽培技術(陸上養殖システム)を確立し、地域の海藻養殖産業の発展と活性化をめざします。

また、伝統的な沿岸網養殖への応用、大学発ブランド海藻の栽培、新たな藻類成長因子の探索とその活用等を通じて、研究とビジネスマインドを兼ね備えた人材の育成にも努めていきます。

全学的な取り組みとして実施することで、海藻の加工や栄養素の分析、市場調査など、総合大学のメリットをいかした本学独自のブランディング事業として地域発展のサポートを行います。



アオサノリの陸上養殖に取り組む山本博文准教授(薬学部)



## 徳島文理大学スクールバスが新しくなりました

学生の皆さんの通学に合わせて運行している本学のスクールバスが新しくなりました。2017(平成29)年11月25日(土)に納車され、学生の皆さんを安全に大学まで送迎できるよう、大麻比古神社にて

交通安全祈願をいたしました。以前のものと比べ、大きな車体になり、全部で60席ある明るく広い車内は、利用している学生さんにも好評です。皆さまぜひご利用ください。



スクールバス運行時間

大学発	徳島駅前発
8:00	8:10*
05	20*
30	40*
35	50*
10:15	10:30
12:15	12:30
30	45
14:20	14:30
50	15:00
16:30	16:45
35	50
18:10	18:25

※土曜日・日曜日は原則として運行しません。  
 ※満員になり次第発車します。  
 ※\*は寺島車庫より発車します。  
 ※出発時刻を変更する場合は、徳島文理大学車庫・寺島車庫掲示版等でお知らせします。

## 人形浄瑠璃部 寿式三番叟人形2体新調、赤松神社秋祭りで初披露

メディアデザイン学科2年 市原啓一(人形浄瑠璃部 部長)

私たち人形浄瑠璃部は寿式三番叟人形2体を新調していただきました。新調するにあたり、理事長先生をはじめ、学長先生他たくさんの先生方にご尽力いただき、感謝申し上げます。

寿式三番叟人形は、2015(平成27)年度に伝統工芸に卓越した技能をもつ人に贈られる「現代の名工」に選ばれた人形師「人形洋」こと甘利洋一郎さんに依頼し制作していただきました。

甘利洋一郎さんは2016(平成28)年には黄綬褒章も受章されたすばらしい方で、私たちにはもったいないほどの人形です。そして、2017(平成29)年10月9日(月)祝には美波町赤松の赤松神社秋祭りにて「寿二人三番叟」を奉納し、その場所で初披露となりました。この日は、制作して下さった甘利さんも見に来てくださり、お褒めの言葉をいただきました。

これからも部員全員で人形に負けないくらい稽古に精進し、心をひとつにして演じていきたいと思っています。



## メディアデザイン学科の学生が徳島県老人クラブ連合会 PR ビデオを作成!



徳島県老人クラブ連合会は、戦後の厳しい状況の中で、老後の幸せを自らの手で創ろうと、全国各地に誕生した老人クラブの1つです。

現在では、10万5000クラブ、約600万人の会員を擁する高齢者最大の組織となりました。そのような中、徳島県老人クラブ連合会は全国に先駆け、1957(昭和32)年9月25日(水)に結成され、今年で60年という輝かしい歴史を築いてきました。そんな徳島県老人クラブ連合会から、さらなる発展のためにPRビデオを作成してほしいという依頼がメディアデザイン学科にありました。

どのようなストーリーにするか話し合った結果、コンセプトは「さまざまな活動を紹介しながら老人クラブの楽しさを表現できるような作品を作ろう!」に決定しました。

2017(平成29)年2月から徳島県内各地で行われている活動の撮影が始まりました。富田小学校で行われている児童との交流会・グラウンドゴルフ・フラダンス・ヨガ・園児との芋掘りなどたくさんの活動をビデオに収めました。また、飯泉嘉門徳島県知事出演を依頼したところ快くお引き受けいただき「老人クラブヘカモン!」のラストシーンを県庁で撮影し、このたび動画が完成しました。

●1月末にメディアデザイン学科ブログにて公開予定です。  
 【URL】<http://www.t.bunri-u.ac.jp/human/media/>





火を灯してランタンを熱で膨らませている様子 書道部の学生がランタンに文字を書いてくれました 地上から糸で制御しながらランタンを約30m上げました

### 平賀源内先生こども科学教室 10周年記念行事 「平賀源内生誕の地さぬきのランタン上げ」を実施

理工学部では、水野貴之准教授と森本滋郎准教授が中心となり、さぬき市の子どもたちに科学の面白さを伝える目的で、平賀源内顕彰会、さぬき市教育委員会と共同で2007(平成19)年度より「平賀源内先生こども科学教室」を実施しています。2016(平成28)年度に節目となる10周年を迎え、関係者で1年かけて

記念行事の内容を検討し、準備を進めてきました。計画段階から約10人の学生がスタッフとして参加し、実験・準備・運営に積極的に取り組んでくれました。2017(平成29)年11月25日(土)、「平賀源内生誕の地さぬきのランタン上げ」と題し、記念行事を実施しました。和紙で作製した高さ1.6mのランタンに灯油で火

を灯すとランタンが徐々に浮かび上がり、参加者からは歓声が沸き起こりました。浮かび上がったランタンを地上から約30mの高さまで上げることに成功しました。本行事が将来のさぬき市志度の伝統行事となり、さらなる地域貢献につながるよう関係組織の連携を深めていきたいと考えています。

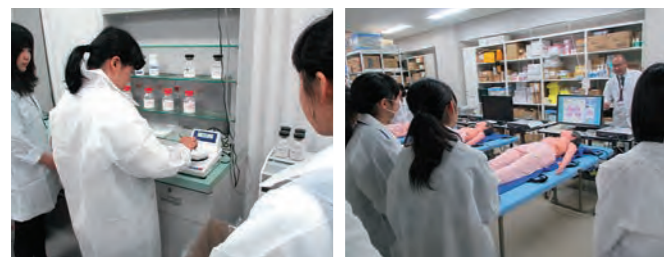
### 「リケジョ養成講座」を開催！

2017(平成29)年10月29日(日)、本学薬学部にて、女子小中高生を対象とした「リケジョ養成講座」が開催されました。

このプログラムは、とくしま科学技術アカデミーステップアップ事業の一つであり、この講座を通じて女子小中高生の皆さんに研究者としての将来像を想像してもらうのが目的です。

当日は徳島県内の女子小中高生13人とその保護者の合計26人を招き、薬学部衛生化学教室の藤代瞳助教による「私の研究生活」と題する講演会や、薬学部4年生の女子6人を交えて座談会を行いました。午後からは薬剤師の業務である粉薬や軟膏の調剤、さらに錠剤の崩壊実験などを体験していただきました。水のpH変化によって錠剤が溶け出すと「オーッ！」という歓声が聞こえるなど、和やかにイベントは終了しました。

来場者からのアンケートには「調剤体験や実験が楽しかった」、「大学生のお姉さんが優しくかった」という声もあり、薬学の楽しさを体験していただけたようでした。



薬剤師の業務体験に取り組む参加者

### 徳島県警察による特別講義の開催



徳島県警察の方から護身術を学ぶ参加者

2017(平成29)年12月7日(木)、徳島県警察による「ジェンダー論特別講義」を行いました。「ドメスティック・バイオレンス(DV)」や「ストーカー」を含む恋愛感情が絡む問題をテーマに挙げ、それらの予防を目的として行いました。

前半は、現状を徳島県警察の方から講義していただき、DV相談は年々増加傾向にあること、最近の特徴としては男性の相談が増えており、被害にあうのは女性だけではないという説明がありました。後半は、相手から暴力を振るわれた時の対処法として、護身術を学びました。

学生たちからは「警察官の方が話して下さることで、DVやストーカーの問題に対する意識がより高まった」「男性も被害にあうことを知って驚いた」などの感想が寄せられました。

### 徳島県「VS東京」プロモーションビデオに学生自主防災クラブが出演！

徳島県が行っている「VS東京」プロモーションビデオに、全国初となる学生300人を防災委員とする本学「学生自主防災クラブ(徳島キャンパス)」の活動が採用され、2017(平成29)年10月20日(金)に撮影が行われました。

徳島県では、特に地震・津波発生時に「災害時要配慮者」の命を守る取り組みが大きな課題となっています。今回は南海トラフ巨大地震発生を想定し、「災害時要配慮者」を階段で4階まで搬送する状況をビデオに撮影し、リアルタイムで振り返りを行い、各班の意見を発表し意識を高めていきました。また、一人ひとりが、地震・津波から自分の命は自分で守るという当事者意識をしっかりと自覚し、各学部・学科の専門性をいかした防災活動で「命を守る地域貢献」について話し合いました。

この様子は、徳島県「VS東京」プロモーションビデオの一部としてホームページで紹介される予定です。

※「VS東京」とは…2015(平成27)年度よりプロモーションビデオの制作をはじめとした、徳島県の良さを発信しているプロジェクトです。



①県担当者・「VS東京」撮影者紹介 ②総務司会者から説明 ③車椅子の人を階段近くまで誘導 ④負傷者を担架で搬送(頭は後ろ) ⑤4班に分かれて振り返り(デブリーフィング) ⑥各班の代表が出された意見を発表

### 「大学を核とした地域防災連携促進事業」(総務省・徳島県)に学生自主防災クラブが参加

2017(平成29)年11月25日(土)、地域の自主防災組織等と連携し、地域防災のリーダーを育成することを目的とした合同防災訓練が徳島県消防学校で実施されました。

徳島市八万地区の自主防災会や消防団等50人、徳島県消防学校6人、徳島県防災センター6人、本学からは各学科・

各学年から防災委員長・副委員長・防災委員の計102人が参加し、総勢164人が参加しました。

基調講義の後、炊き出し訓練・避難誘導訓練・避難所運営訓練(HUG)・倒壊物救助訓練を終日かけて行いました。学生たちは、実践的な訓練に真剣に取り組んでいました。参加学生を代表して、学

生自主防災クラブ委員長を務める保健福祉学部口腔保健学科1年堀江奈々さんが、皆さんへお礼の言葉を述べました。

総務省や徳島県の担当者からは「学生の皆さんが地域の方と連携して実施する大規模な実践に即した合同訓練ができた」と講評の言葉をいただきました。



避難誘導訓練の様子 避難所運営訓練(HUG)の様子 倒壊物救助訓練の様子



## 第12回 徳島文理大学イルミネーション点灯式

本学のイルミネーションは、2017（平成29）年で12年目を迎えました。2017（平成29）年度は12月1日（金）に徳島キャンパス、12月6日（水）に香川キャンパスにてイルミネーション点灯式を開催しました。

徳島キャンパスでは、村崎理事長・桐野学長・2017（平成29）年度のミス文理に選ばれた看護学科4年の石川芽依さんが来場者の皆さんとともにカウントダウンをした後、点灯スイッチを押しました。イルミネーション点灯後は、音楽学部の皆さんによるクリスマスコンサートが行われ、その後ダンス部の皆さんがアクロバ

ティックなダンスを披露しました。点灯式終了後は、児童学科の学生たちによる特別イベントが開催され、地域の皆さんや小さな子どもたちへ松ぼっくりを使ったクリスマスツリーやバルーンのプレゼント、絵本の読み聞かせなどを行いました。

香川キャンパスでは、志度中学校吹奏楽部の皆さんによる演奏やゴスペルサークルによるコンサート、ダンス部の皆さんによるポピュラーソングを使ったダンスで盛り上がった後、イルミネーションが点灯されました。点灯後はサンタに扮したハンドベルクワイアの皆さんによるクリスマスコンサートが行われました。

点灯式の最後には、学生サンタクロースによるプレゼントセレモニーがあり、集まった皆さんにささやかなプレゼントを贈りました。

毎年多くの方から楽しみにいただいている本学のイルミネーションは、2018（平成30）年2月14日（水）まで点灯しています。自由に鑑賞していただけますので、この機会に本学の幻想的なイルミネーションを見にお越しください。

点灯期間：2018（平成30）年2月14日（水）まで  
期間中は17:00～21:00まで点灯  
\*センター試験に伴い、1月12日（金）・1月13日（土）は点灯しません。1月14日（日）はセンター試験受験者のみ鑑賞可



徳島キャンパス・香川キャンパスで開催されたイルミネーション点灯式の様子

徳島

## 山城祭を終えて



第53回山城祭は「途～未来に向かって～」をテーマに、2017（平成29）年10月13日（金）～15日（日）に開催しました。山城祭いかがでしたでしょうか。仲間同士で感情を共有し、未来に向かって道を歩むことで、たくさんの思い出ができた山城祭だったでしょうか。学生同士、ま

た先生方とも絆を深めることができたでしょうか。少しでもそのお手伝いできていたら幸いです。

2日目、3日目は悪天候にみまわれ、後夜祭ではバルーンリリースができませんでしたが、皆さんにご協力いただき、たくさんの方にご来場いただくことができ

ました。本当にありがとうございました。たくさんの先生方や学生の皆さんのおかげで、本年度も無事に山城祭を終えることができました。山城祭実行委員会一同、感謝いたします。来年も笑顔一杯の素敵な山城祭でお待ちしています。ありがとうございました。

香川

## 杏樹祭を終えて



第32回杏樹祭は2017（平成29）年10月14日（土）～15日（日）の2日間、「波紋～波の便り～」をテーマに、サークル・同好会・愛好会の皆さんに協力していただき、にぎやかな杏樹祭を開催することができました。

雨の中での開催となりましたが、たくさんの方にご来場いただきました。ゴス

ペルサークル・ダンス部・軽音部によるパフォーマンス、歌うま王決定戦やピンゴ大会など、学生が主体となって盛り上げることができました。

14日（土）は、香川県出身でCMでもおなじみのmimikaさんに出演していただき、とても楽しいLiveになりました。15日（日）は、メインゲストとしてスギ

ちゃんに出演していただきました。スギちゃんの面白いトークによって、会場は笑いにつつまれました。杏樹祭の2日間は本当に楽しく、とても良い思い出になりました。杏樹祭に関わっていただいた全ての皆さんに感謝します。本当にありがとうございました。





ステージ杯に会場参加者と輪踊り



女踊り「サッサ」



男踊り「セイヤ」



女踊り教室

### 徳島文理大学連が「秋の阿波おどり」に大学連として初出場！！

2017（平成29）年11月5日（日）にアスティとくしまにて開催された、徳島の魅力を発信する秋の踊りの祭典「秋の阿波おどり」（主催：徳島県・徳島県観光協会）に、徳島文理大学連が出演しました。このイベントは今回で10回目となり、大学連としては初めて出演しました。全国からの来場者に阿波おどりの魅力を大いに発信しました。司会者からは、徳

島文理大学連は創部55年目になり、特に「はな・はる・フェスタ」の「阿波おどりコンテスト」で10連覇を果たすなど、高いレベルの踊りを披露する大学連として評価を得ているとの紹介がありました。男踊りでは三角形のフォーメーションを崩さず素早く移動する「セイヤ」と、女踊りでは下駄を鳴らしながら踊る

「サッサ」踊りが披露されました。その後、ミニ阿波おどり教室やステージ上で会場参加者の方と一緒に輪になって阿波おどりを披露し、観客からは大きな拍手をいただきました。これからもさらに練習を積み重ね、より高い踊りの技術の習得をめざしながら、徳島文理大学連の踊りをとおして阿波おどりの魅力を発信してまいります。

### 2017（平成29）年度〈後期〉クラブ・サークル 大会結果

#### 徳島キャンパス

- 準硬式野球部
  - ・清瀬杯 第49回全日本大学選抜準硬式野球大会／出場（四国ブロック代表）
- 弓道部
  - ・第24回県下大学選手権大会 女子団体／優勝
  - 男子団体Aチーム／3位

- 剣道部
  - ・眉山杯／第36回徳島県大学剣道選手権大会 個人／優勝
  - 心理学科2年 黒田木乃佳
  - 個人／3位
  - 心理学科1年 大松瑞季
  - 優秀選手賞
  - 心理学科2年 黒田木乃佳
  - 優秀選手賞
  - 心理学科1年 弘光美波
  - 優秀選手賞

- 理学療法学科2年 矢野航平
- 男子バスケットボール部
  - ・第69回全日本大学バスケットボール選手権大会四国予選／3位
  - 優秀選手
  - 食物栄養学科3年 城間銀次郎
- 卓球部
  - ・第31回徳島市長杯争奪卓球大会

- 第1部／5位
- 総合政策学科1年 林 弘一
- 第2部／優勝
- 人間生活学科3年 松尾信之介
- 日本拳法部
  - ・新日本拳法同志会 第5回西日本選手権大会
  - 型 高校・一般男女の部／2位
  - 食物栄養学科2年 米須 鈴花
  - 高校・一般新人防具の部／3位
  - メディアデザイン学科2年 林 勇佑

### クラブ・サークル紹介・受賞団体の声



徳島キャンパス

ピアとは仲間。ピアカウンセリングとは、仲間と心を開いて不安や悩みを共感・共有し合い、どうしたらいいか一緒に考えていく活動です。私たちは思春期ピアカウンセラーの資格を取得し、県内の中学校・高校で活動しています。自分の現在と未来、周囲を大切にしながら自己決定ができるよう、「自分を大切にすること」をテーマに、性についての正しい知識を伝えたり、より良い人間関係の築き方について一緒に考えたりする健康教育を実施しています。思春期を過ぎて間もない私たちだからこそ、共感できることや伝えられることがあると思います。徳島県でこの活動が始まって4年目、とくしまピアサークルを立ち上げて1年目となります。今後はさらに活動を広げていきたいです。



徳島キャンパス

「法務大臣からの感謝状受賞」について 私たちBBS（Big Brothers and Sisters movement）部は、1995（平成7）年から、保護観察中の少年たちや児童養護施設の子どものお兄さん・お姉さん役となってスポーツや清掃活動、レクリエーションなどのボランティア活動を行ったり、非行防止に関する広報活動や研修に参加したり、さまざまな活動を行ってきました。このような長年にわたって積み重ねてきた成果が、今回の受賞という結果に繋がったことを心より嬉しく思います。また、この活動はOB・OGや一般の方々のサポートがなければ成り立ちません。そういったたくさんの方々への感謝の気持ちも忘れてはならないと思います。現在部員は41人で、学年や学部学科の枠を越えて部員同士で仲を深めることができ、活動についての意見交換も活発になって、全体のモチベーションも上がってきました。先輩方が築いてきた実績を私たちが引き継いで、より良い活動ができるようにこれからも励んでいくつもりです。

### 裏千家淡交会高松支部学校茶道連絡協議会主催 学校茶道茶会に参加



香川キャンパス

秋晴れの好天に恵まれた2017（平成29）年10月1日（日）、高松市中条財団茶室にて学校茶道茶会が開催されました。大学部門では本学茶道部（学生8人）と香川大学茶道部が担当しました。午前中は本学（4席）が、中学生・一般の方々・淡交会の先生方をお客さまにお点前を披露しました。緊張しながらも1席を終えるごとに、反省・修正しながらおもてなしに専念しました。慣れない質問に、ときには「失礼します」と手持ちのメモを確認しながら熱心に答える姿に席中は和やかな空気につつまれました。席終了後、お見送りの際に「楽しいお茶会だった」「これからもがんばって茶道を続けてくださいね」と、多くのお客さまに声をかけていただき、茶道部員のやる気も一段と強くなり、良い経験となりました。



学校茶道茶会 当日の様子



## 先輩からの手紙 —就職内定者—



**就職内定** 後悔しないように

総合政策学部総合政策学科 4年  
鈴木 綾  
徳島県学校事務 内定

私は生まれ育った徳島県のために働きたいと考え、公務員をめざすようになりました。

公務員試験で内定をもらうためには、まず筆記試験に合格しなければなりません。そのために何度も繰り返し問題集を解きました。面接試験では、総合政策学部と就職支援部の先生方に模擬面接をしていただき、的確なアドバイスをいただきました。私は面接に対して苦手意識をもっていたのですが、しっかり準備ができたことで、落ち着いて面接に臨むことができました。

就職活動では、悩むことも多いと思います。そんな時は「自分が後悔しないように」ということを考えて行動するようにしていました。自分の夢をかなえるために、最後まで努力を怠らず、夢をつかみとってください。



**就職内定** 視野を広く

短期大学部商科 2年  
長澤 茉莉奈  
四国銀行 内定

私は地元である高知県で就職しようと考えていたので、学内で開催された合同企業説明会だけでなく、高知県で開催された合同企業説明会にも参加しました。企業の方と話をしていると自分の働く姿が想像でき、がんばろうという気持ちになりました。

就職活動は自分が何を軸にして企業を探すのかを決めることが大切だと思いました。また、自分の知らない企業、興味がないと思った企業のブースにも積極的に行ってみることで自分の視野が広がります。毎年3月に学内で開催される合同企業説明会が始まると同時に就職活動を始めれば、時間は十分にあると思うので、最初の1か月間はより多くの企業を見て、より多くの人と話をすることで自分の中で仕事に対する考え方がまとまり、自分のやりたい仕事に分かってくると思います。自分ひとりだと思わず、友人たちと支え合って夢に向かってがんばってください。



**就職内定** 就職活動必勝法

理工学部電子情報工学科 4年  
山本 凌太  
太陽石油株式会社 内定

私が就職活動において重要と感じたことは、まず身だしなみや時間・期日の厳守(15分前には必ず会場に到着)、機敏な動きや挨拶などは就職活動をする上での最低限のマナーであるということです。

次に「内定をいただく」ではなく「内定を自分の力でつかみ取る」という意識で行動してください。自らの強みをどんどん出していき、「絶対にこの企業に入社する」という強い気持ちをもち続けていれば、必ず企業に伝わります。

最後に、私立大学だからこそその強みがあると思います。それは皆さん自身で考えて答えを出してください。「国立大学には負けない部分」それさえ分かればもう怖いものはありません。あとは自分を信じてチャレンジあるのみです。がんばってください!!



**就職内定** 「進みたい道」を見つけよう!

文学部英語英米文化学科 4年  
谷崎 美玲  
徳島信用金庫 内定

私は就職活動を始めるまで「自分の進みたい道」が見つかっておらず、焦ることもなく漠然と事務職に就きたいと思っていました。就職活動が始まり、参加した合同企業説明会では友人と一緒に金融機関を中心にブースを訪れました。さまざまな合同企業説明会に参加しましたが、なかなか自分がしたい仕事とは出会うことができませんでした。

しかし、ある合同企業説明会に参加した際に、初めて働いてみたいと思える会社に出会うことができました。それが私の内定先である徳島信用金庫です。その後は、合同企業説明会に参加した際は内定先のブースを訪問したり、会社訪問をしたりと何度も訪問して質問をさせていただきました。担当の方からお話を伺うたびに「ここで働きたい」という気持ちが強くなり、採用試験を受けることにしました。就職活動では「この会社で働きたい」と思える会社を見つけるためにも、たくさんの合同企業説明会に参加することをお勧めします。

最後に、就職はゴールではなくスタートだと思っています。これから地元の徳島に貢献できるように、がんばってまいります。

## 先輩からの手紙 —教員・保育士採用試験合格者—



**保育士採用** 経験が自信に、自信が夢に

人間生活学部児童学科 4年  
石川 由惟  
吉野川市保育士・幼稚園教諭 合格

私は教員採用試験に合格するためには「自信」が必要だと思います。どうして私が自信をもつことができたかという、夢のために誰にも負けないくらいがんばってきたと強く思えたからです。“たくさん勉強したから大丈夫”、“たくさん先生に見てもらって練習したから大丈夫”と自分を信じることができたからこそ、合格を勝ち取ることができたと思っています。

教員採用試験は長期にわたる自分との戦いです。筆記試験に向けてひたすら勉強したり、2次試験対策ではさまざまな先生方にアドバイスをいただいたりしました。もちろん逃げ出したい時もあるたくさんありましたが、その一つひとつ、1日1日をがんばり自分と向き合ってきたからこそ自信が生まれたと思います。

あなたの周りには、同じように戦っている仲間、そして全力でサポートしてくれる先生方がいます。そんな人たちを頼りにしながら、夢のためにあきらめずがんばってください。



**教員採用** あきらめないこと

人間生活学部食物栄養学科 4年  
椎野 沙弥香  
徳島県高等学校(家庭科)教諭 合格

私の在籍する食物栄養学科は、主に管理栄養士をめざす学生が集まる学科なのですが、私は入学当初から教員になりたいと思っていました。しかし、大学生活を送るなかで管理栄養士と教員という勉強の両立が本当にできるのだろうかと不安を感じることもありました。それでも「絶対に教員になる!」という思いを胸に、努力することをやめませんでした。学年が上がるにつれて専門的な内容の授業が増え、大変になると同時に「もし自分が教員だったら…」と将来を想像してワクワクしていました。

教員採用試験の勉強は大変な部分もありますが、それでも夢に向かって努力し続けることが大切です。時には大学の先生方にアドバイスをいただきつつ、また友人と支え合いながら、あきらめず夢に向かってがんばってください。



**教員採用** ここからが本当の…

人間生活学部児童学科 4年  
織田 このみ  
愛媛県小学校教諭 合格

私が教員採用試験に合格できたのは、熱心に指導してくださった先生方の支えや後押しがあったからです。夏休みを返上し、毎日のように面接や小論文、模擬授業などの対策をしてくださり、挫けそうなときやつらいときは何度も励まし、奮い立たせてくれました。

合格はゴールではなく新たなスタートです。いいスタートが切れるよう、子どもたちとともに成長できる教師をめざし、今まで以上に精一杯がんばりたいと思います。

自分には今何ができるか、何をすべきかをよく考え、自分が正しいと思う道を迷わず突き進んでください。そうすれば必ず道は開けるはず。今の取り組みが輝かしい未来へ直結していると信じてがんばってください。



**教員採用** あきらめない気持ちと自分を信じること

人間生活学部人間生活学科 4年  
穂崎 琴子  
高知県養護教諭 合格

「絶対に養護教諭になる」という目標をもって大学に入学したものの、挫けそうになったことが何度もありました。しかし、その度に先生方や教師をめざす仲間たちから、たくさんの支えの言葉やアドバイスをもらいました。また、教育実習や学習支援ボランティアでの子どもたちとの関わりをとおして「心身の健康を支え守る立場から、子どもたちの将来の輝きに貢献したい」と強く思うようになり、教員採用試験の勉強を乗り越えることができました。

「これでいいのだろうか」と、常に不安と戦いながら勉強していましたが、あきらめずに自分を信じて必死に取り組むことで、自信も結果も自ずとつき、教員採用試験を楽しむことができました。合格通知を手にした時は本当に嬉しかったです。

苦しい時もあるかと思いますが、そんな時には先生方や仲間、家族などたくさんの人に支えられていることを思い出して、あきらめずに夢をかなえてほしいと思います。





# 人間生活学部人間生活学科

【連載】研究室への誘い

- 人間生活学科 准教授 竹原 明美 (専門：家庭科教育)
- 人間生活学科 4年 舛田 梨紗 (徳島県立那賀高校出身)
- 人間生活学科 4年 吉本 実由 (高知県立四万十高校出身)
- 人間生活学科 4年 原田真由子 (徳島県立城北高校出身)
- 人間生活学科 4年 宮里恵利花 (沖縄県立北谷高校出身)

## ●竹原先生にお聞きします。人間生活学科の学びのポイントを教えてください。

人と生活について科学的・文化的に学び、より豊かな生活を送るためにはどうしたらよいかを考えていきます。そのために食・衣・住・保健・養護・環境問題・経済・消費者教育など幅広く学びます。そして、生きる力を伝える家庭科教諭・養護教諭・保健科教諭の養成をサポートするとともに、就職に有利なフードスペシャリスト・医療



山城祭での鹿茸製品販売の様子

秘書・消費生活アドバイザー・カラーコーディネーターなどの資格がスムーズに取得できるようサポートしています。

## ●人間生活学科にはどんな研究室(各研究室の研究テーマなど)がありますか？

**藤田義彦(学科長) 研究室**  
・衛生学、公衆衛生学  
DNAによる農畜産物の品種識別に関する研究、科学鑑定の標準化に関する研究

**永山績夫 研究室**  
・食品衛生学  
食の安全性に関する研究

**岡部千鶴 研究室**  
・家族関係学、家庭経営学、消費者行動論  
家族を超えた関係の形成、ケアの社会化など、家族の問題を社会的な広がりで見える視点からの研究

**竹内理恵 研究室**  
・養護実践学、看護学  
現場と協力して養護教諭の実践力を高める研究

**竹原明美 研究室**  
・家庭科教育法、調理学  
家庭科での有効的な教材開発に関する研究、鹿茸の研究

## ●学生さんたちの雰囲気はいかがですか？なかでも、このコーナーで取材する学生さんは、どのように取り組まれていますか？

学生と教員の距離が近く、学生が気軽に質問や相談がしやすい雰囲気があります。また、学生同士は仲が良く、お互いに助け合いながら勉学を中心に充実した日々を送っています。

近年徳島県において野生鳥獣被害が深刻で、イノシシ・猿・鹿による農作物被害が

全体の94%も占めています。特に鹿については捕獲してジビエ料理に利用されていますが、皮は廃棄されているのが現状です。そこで研究室では、鹿茸を有効利用できないかと昨年度から「鹿茸の研究」に取り組んでいます。2016(平成28)年度は手探り状態でしたが2017(平成29)年度は、「鹿茸の染色」や「中学校教材への取り入れ」、「鹿茸で製作した小物の販売」をテーマに研究しています。この研究を支援して下さっている県庁の方や革職人の方、染織家の方々の工房へは全員で取材に向いてお話を伺ったり、助言をいただいたりして研究室の学生同士が情報を共有しながら研究に取り組んでいます。

## ●続いて学生の皆さんにお聞きします。人間生活学科に進学しようと思ったきっかけ、理由はなんですか？

**舛田**：高校3年生の時に養護教諭という職業に興味をもち、その免許が取得できると知ったからです。本学では他にも養護教諭の免許が取得できる学科はありましたが、人間生活学科は少人数教育のため、先生のサポートがしっかりしているのではないかと考えました。また、養護教諭の免許以外にもさまざまな免許や資格が取得できるところにも魅力を感じました。

**吉本**：きっかけは、高校生の時に参加した徳島文理大学のオープンキャンパスです。その時に、人間生活学科では家庭科教諭と養護教諭、保健科教諭の3種類の免許が取得可能であることに魅力を感じました。

**宮里**：高校時代、家庭科の教員になることをめざしていた私は、進学相談会などで説明を聞いたり自己分析をしたりする中で食物に特化するのではなく、食衣住をはじめ、家族についてなど生活に関わることをもっと深く学びたいと思うようになりました。また、生け花や裁縫、料理など趣味の領域だっ



鹿茸を使った製品を持つ舛田さん

たことについても、より詳しく学べるところにも魅力を感じていました。人間生活学科の柔らかな雰囲気が入学の決め手です。

## ●現在所属している研究室(ゼミ)を選んだきっかけ、理由を教えてください。

**舛田**：私は「絶対にこれを研究したい!」というものが特になく、そんな時に先輩方が研究していた鹿茸の研究の発表を聞き、私も少し興味をもちました。また、竹原先生は親しみやすく話しやすいと思ったこともこのゼミを選んだきっかけです。クラスで信頼している友人もこのゼミに入るということで、一緒にがんばろうと思える存在がいたことは、一つの大きな理由でもあります。

**吉本**：私は、中学校の家庭科の授業で利用することができる教材の研究をしたかったため、この研究室を選びました。

**宮里**：当初は「食事環境に対する人の幸福感の違い」についてや家族に関することなど、研究したい内容が家庭科の分野のものが多かったため、このゼミを選びました。大学3年生のころに鹿茸の利用の研究を始め、鹿茸を使った製品を作り、その中で「鹿茸を染色したらもっとたくさんの製品ができるのではないか」と思い、4年生でも竹原ゼミで鹿茸の研究を続けようと思いました。

## ●現在の研究内容を教えてください。

**舛田**：鹿茸を用いて作ったものを商品として販売することで、鹿茸の利用と販売を結びつけた研究をしています。鹿茸がどのように利用できるのか、そして、それをどのような過程で製作し、どのくらいの値段で売るのが妥当なのかなどについて、実際に自分たちで作ったものを山城祭で販売し、研究を進めてきました。

**吉本**：鹿の生態や、鹿が引き起こす環境破



吉本さんが製作した布絵本

壊などの被害について生徒に教えることができるよう学んでいます。また、家庭科の中の「被服」や「幼児」の単元の教材としても活用できる布絵本の製作を研究しています。

**宮里**：現在は鹿茸の製品化の幅を広げるため、鹿茸の染色の研究を行っています。染色の中でも徳島県の伝統工芸である「藍染め」に注目して研究を進めています。

染色時間や染液の違いによる色の変化・染まり具合を実験してみたり、製品化に向けての課題を出したりしています。

また、神山町で鹿茸を活用してオリジナルバッグの製作をしている「鈴木カバン」さんに鹿茸活用についてのアドバイスをいただいたり、染め師さんや小松島西高校の先生からも藍染めについて教わったりと、たくさんの方に研究に役立つ知識を教えてくださいました。

## ●これからの目標、将来の夢を教えてください。

**舛田**：私は卒業後に金融機関に就職するため、鹿茸の研究で得たさまざまな知識をいかして、相手の気持ちを理解して仕事ができる社会人になりたいです。また、人間生活学科で学んだ食・衣・住の知識を自分自身の生活に反映し、温かな家庭を築きたいです。

**吉本**：今後は、地元である高知県の家庭科教員になり、この研究室で研究した知識を生徒たちに伝えられるよう、教員採用試験の勉強をがんばりたいと思います。

**宮里**：これからの目標は、もっと藍染めについての知識をつけることと、研究で気になることがあればとにかく挑戦してみたいです。将来の夢は、研究で培った探求心・探究力を社会人になっても忘れず仕事に励むことです。また、出身地である沖縄県や徳島県の歴史や伝統工芸に触れ、それらに関する知識をつけて、歴史や伝統を守っていける人になりたいです。



鹿茸の藍染め実験を行った宮里さん



# アカンサス会からの お知らせ

〈徳島県支部〉  
〈香川県支部〉



尾道水道



香川県支部



西条酒蔵通り散策



西國寺仁王門

## 香川県支部 2017(平成29)年 アカンサス会親睦旅行 in 広島

2017(平成29)年11月3日(祝)、早朝より元旅行会社勤務の経験をいかし、17年ぶりに面白おかしく添乗員業務を行ってきました。

最初の訪問地の西条では、歴史のある酒蔵で数種の銘酒を試飲、ボリューム満点の美酒鍋に舌鼓を打った後、待望の尾道(文学のこみち、映画のロケ地、西國寺)を訪ね、散策してきました。西國寺では、濱田文学部長のおかげで日ごろ見ることのできない貴重な国宝級の仏像を

見せていただき、本当に感謝しております。

最後になりましたが、今回が初参加の在学生9人を含む総勢22人で催行できたことが何よりも嬉しく楽しかったです。次年度はさらにパワーアップした魅力ある旅行を企画いたしますので皆さま楽しみにしてくださいね。

さて次は何処に行こうかな? ^\_^

(香川県支部長 今村幸太郎)



アカンサス会4人衆

徳島県支部

## 2017(平成29)年 アカンサス会徳島県支部の活動

2017(平成29)年3月4日(土)、徳島県支部役員会を開催しました。この役員会では支部活動を活発にするため「子育て世代の同窓生は多忙の中、大学に来る機会が少ないため、子育て世代の方々に集まってもらいやすいイベントを大学内で行ってはどうか」「夏休み中の宿題に役立つイベントを大学内で行うことで子育て世代(あるいは関心のある方々)に足を運んでもらえるのではないか」また、「子育てを終えた方々には、糖尿病に関

する講演など健康づくりに関するイベント開催も良いのではないか」という意見ができました。

6月10日(土)、徳島県支部総会を開催し、3月4日(土)の意見を取り入れ、今年度の行事を決定しました。

総会后、本学卒業生であり学内教員である長尾久美子先生(本学短期大学部生活科学科食物専攻准教授)と、岡山千賀子先生(本学人間生活学部児童学科准教授)を講師として、研修会演題:「災害



写真①:長尾先生と岡山先生による防災講義

に備えて」①バッククッキングについて、②災害グッズについてという内容で、講義と実習をしていただきました(写真①)。

その後、2017(平成29)年度は新企画として3つの行事を行いました。

新企画①

### ドクター・ふじたのおもしろい理科実験

日時:2017(平成29)年8月2日(水)  
13時30分~16時30分

講師:人間生活学部人間生活学科教授  
藤田義彦先生(元アカンサス会会長)

場所:1号館5階(1501実験室)

対象:小・中学生

参加者:子ども27人・付き添い20人  
(19組)

◇理科実験の内容を学校に提出した参加者のうち、学校代表に選ばれた方が多数おられました。

#### 【講師の先生の感想】

参加された小・中学生の皆さんが、興味深く一生懸命に実験されていたことに感動しました。これを機会に理科に親しんでいただき、将来社会に役立つ発明・発見を期待しております。



(写真上) 実験方法を分かりやすく説明する藤田先生  
(写真下) 紫キャベツの色で酸性・アルカリ性を調べている様子

新企画②

### 親子で夏休みの宿題を完成させよう(絵画)

日時:2017(平成29)年8月18日(金)  
13時30分~16時30分

講師:人間生活学部児童学科准教授  
仁宇暁子先生

場所:14号館3階(14303教室)

対象:小・中学生

参加者:子ども16人・付き添い10人  
(10組)

◇絵画教室に参加して完成させた絵を提出した小学5年生の方が徳島市教育長賞を受賞し、その他にも多くの方が賞を受賞しました。

#### 【講師の先生の感想】

子どもさんも保護者の方も、内に潜んでいる素晴らしいアート感覚に気がつくことができた貴重な時間となりました。



(写真上) 絵を描く時のポイントを紹介する仁宇先生  
(写真下) 完成したみんなの絵

新企画③

### ノルディックウォーキング

徳島文理大学のキャンパス内とその周辺をみんなで歩いてみませんか?

日時:2017(平成29)年11月18日(土)  
10時~12時

講師:保健福祉学部理学療法学科准教授  
柳澤幸夫先生

場所:体育館2階

参加者:子ども5人・家族1人・アカンサス会員15人・学生29人(60人)

◇当日は雨でしたので体育館内を歩きましたが、参加者はノルディックウォーキングの正しい歩き方を学ぶことができただけでなく、日ごろの運動不足も解消できました。理学療法学科の4年生の学生は将来の指導方法を学ぶことができ、良い体験ができたと思います。

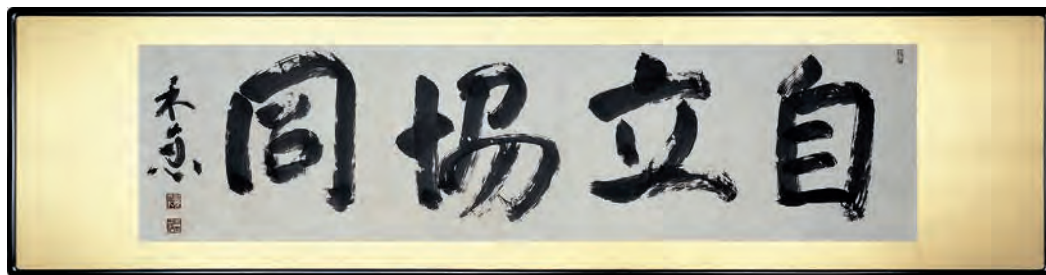
#### 【講師の先生の感想】

参加者は熱心に正しい歩き方を習得してくれました。日ごろの健康管理に役立てていただければと思います。



(写真上) ノルディックウォーキングの基本を教える柳澤先生  
(写真下) 参加者全員で心地良い汗をかきました。





## 徳島文理大学の建学精神

徳島文理大学の建学精神は、「自立協同」である。

この建学精神は、学祖村崎サイが明治28年（1895年）7月徳島に私立裁縫専修学校を設立した歴史に由来する。学祖は、「女も独り立ちが出来ねばならぬ」との信念を持ち「女性の自立」を唱えて村崎学園を創立した。昭和20年（1945年）7月、学園は戦火に包まれ灰燼に帰し、村崎サイも学園と運命を共にした。その年の秋、戦野から帰還した村崎凡人前理事長は、学園の復興に精魂を傾け、総合学園の建設を目指した。その過程で、「他からの協力、他への協力なくして、『人間の自立』はあり得ない。」との確信に至り、学祖村崎サイの精神を受け継ぎ、「村崎学園」の建学精神を「自立協同」としたものである。

この建学精神の意味するところは、成長してゆく人間として、「自立」は重要な到達目的であり、「協同」は「自立」を具現化する方法、とするものである。「協同」は「力を合わせて物事をする」ことなので、個としての「自立」は、「協同」すなわち「他からの協力、他への協力」という体験の中で促される。「人」はその体験を通して人間的な成長を遂げる。学園における教養的教育、専門的学術・芸術探求の教育は、まさに「人間の自立」を促す「協同」の場であらねばならない。

爾来、学園はこのような歴史に基づいた「自立協同」の建学精神のもと、教育を推進し、幼、小、中、高、短大、大学併せて9学部27学科、6大学院、3専攻科、そして、5研究所、1相談室を有する総合学園として発展してきた。

今後とも建学精神のもと、ますます精進し、学術・芸術の探究を通して未来を創造する大学でありたいと願っている。

### 徳島キャンパス（徳島県徳島市山城町）

- 大 学 院……薬学研究科(博士課程)／人間生活学研究科(博士課程)／看護学研究科(博士課程)／総合政策学研究科(修士課程)
- 専 攻 科……人間生活学専攻科(児童学専攻・人間生活学専攻)／助産学専攻科／音楽専攻科(器楽専攻・声楽専攻)
- 薬 学 部……薬学科
- 人間生活学部……食物栄養学科／児童学科／心理学科／メディアデザイン学科／建築デザイン学科／人間生活学科
- 保健福祉学部……口腔保健学科／理学療法学科／看護学科／人間福祉学科
- 総合政策学部……総合政策学科
- 音 楽 学 部……音楽学科
- 短期大学部……商科／言語コミュニケーション学科／生活科学科／保育科／音楽科

### 香川キャンパス（香川県さぬき市志度）

- 大 学 院……薬学研究科(博士課程)／工学研究科(博士課程)／文学研究科(博士課程)
- 香川薬学部……薬学科
- 保健福祉学部……診療放射線学科／臨床工学科
- 理 工 学 部……ナノ物質工学科／機械創造工学科／電子情報工学科
- 文 学 部……文化財学科／日本文学科／英語英米文化学科

### 徳島文理大学ホームページ



<http://www.bunri-u.ac.jp>



**校章の由来** …Acanthusとは、アカンサス属の一種、アカンサス・モルリスの葉で、別名ハアザミ。その刺は、事に当たって厳正、的確に処理する優れた知性を、その葉は古代ギリシャの美または芸術に通ずる豊かな情操を具象化し、本学の建学精神である「自立」を具現化した科学と芸術を示すものとして校章に制定されました。